

平成29年度第1回白河市子ども・子育て会議 会議録

○日 時：平成29年7月24日（月）午後6時30分から

○場 所：白河市役所5階 正庁

○参集者：白河市子ども・子育て会議委員（12名）

保健福祉部長、保健福祉部次長、こども未来室長

こども支援課：課長、主幹、支援係長、担当係員

こども育成課：課長、主幹、保育係長

◇委嘱状交付式

・交替となった委員4名（うち1名欠席）に対し、部長より委嘱状を交付。

◇子ども・子育て会議（進行：こども支援課長）

・会長あいさつ：県の子ども・子育て会議に出席したが、実態調査によると「子育て支援センター」の名前を知らないという回答が約3割で、市や社協の制度についても、まだまだ知られていないのだと思った。

・部長あいさつ

・協議

（1）白河市子ども・子育て計画の進行管理について

＜事務局説明：支援係長＞

計画第4章（P.35～78）に対応する「子ども・子育て計画点検シート」に基づき、平成29年度の主な新規・拡充事業について説明。

（放課後児童健全育成事業、病後児保育（施設型）、一時預かり事業、つどいの広場事業、待機児童の解消、就学援助事業、妊産婦健康診査、要保護児童対策地域協議会の推進、就業機会の拡充、母子家庭等の親への自立・就業支援、子どもの居場所づくり支援事業）

＜質疑応答＞

○永野委員：シートP.1の一時預かり事業について、制度変更により、今まで利用できていた人が利用できなくなった例があると聞いているがどうか。また、保育園の一時預かりは1日1,000円、広場等では一時預かりは1時間600円と、料金に差がある現状である。

⇒事務局：待機児童の問題を解消するため、おもてごう保育園等の増築を行うが、即効性のある事業として一時預かりの拡充を実施した。お話いただいたような事例は把握していなかったが、申込は先着順としている。今後も、利用者の声をいただきながら改善していきたい。また、金額のすり合わせについては、利用形態なども調査して検討していきたい。

(2) 特定教育・保育施設の利用定員の設定について

<事務局説明：保育係長>

待機児童の解消に資するため、おもてごう保育園に別棟を増築するとともに、3～5歳児の部屋を0～2歳児の部屋として活用する。なお、おもてごう保育園は0～2歳児専用施設化を進める方向であり、3～5歳児については表郷幼稚園で受け入れていく。

<質疑応答>

○永野委員：おもてごう保育園での一時預かりは実施可能か。

⇒事務局：そのためのスペースまで確保できるわけではないため、一時預かりまでは難しい状態である。

○田中委員：支援員配置等を含めて、幼稚園での受入は実際可能なのか。

⇒事務局：現状、3～5歳の8割は幼稚園へ流れており、2割が保育園に残る。幼稚園は2クラスあり、現体制で受け入れ可能であり、手のかかる子には市が支援員をつけている。

⇒田中委員：小学校では特別支援学級の児童数は増えているが支援員の数は増えないという問題があるが、幼稚園まで行き渡るのか。今後は保育園と幼稚園の住み分けをしていくという話だと思うが、支援員がいる保育園を希望する場合もある。

⇒事務局：現状、個別に相談を受けて対応しているところだが、勤務先が旧市内の場合など、旧市内の保育園を選んでもらうなどの対応は考えられる。

(3) その他

<議長>

せっかくの機会なので、各委員からご意見・ご質問や、子どもや子育てに関して日頃感じていることなどをお話いただきたい。

○平瀬委員：小学校の運動会で、熱中症対策としてテントを建てることはできないか。

⇒小林委員：今年は確かに暑かったが、時間を切るなど工夫して実施した。

赤十字などのテントを借りる方法もあるが、他校と同じ日になるので難しいと思われる。

⇒平瀬委員：市で購入する方法も検討いただきたい。

○石原委員：シート P.2 のホームビジターとは何か。

⇒樋口委員：ホームビジターとは、地域の子育て経験者（一般の方）で、子育てが大変な家庭等を訪問し、協働により支援するボランティアである。

○石原委員：シート P.4 のさわやか教室とは何か。

⇒事務局：いわゆる不登校の生徒が通える場として、国体記念体育館の一室で

開催している。

- 国井委員：先日、おひさまひろばの大信出張ひろばを見させていただいたが、おもちゃなど充実していたが、参加者が少ないように感じた。参加者を増やす工夫が何かないか。
- ⇒樋口委員：6月のおもちゃひろばのほか、秋頃にもイベントを開催する予定。今後、開催の形態を含めて検討していく必要性は感じている。
- 国井委員：母子手帳の交付数と出生数について、流産等により差があると聞いているが、白河市の状況はどうか。
- ⇒事務局：H27年度出生数（1～12月）は475、母子手帳交付数（4～3月）は483で、転入出もあることから、大きな差があるという認識はないが、なお詳細について調べて報告する。
- 田中委員：資料2にある小規模保育施設の開園については、どの程度決定しているのか。
- ⇒事務局：白坂一里段の広域情報センターを改修し、定員19人で来年4月に開設予定。民間事業所と現在調整中。
- 永野委員：子育て支援ガイドブック「ぽっかぽか」に広告を入れたことについて説明してほしい。また、子育て支援アプリについて、更新頻度が低いので最近使っていないという利用者の声がある。
- ⇒事務局：業者からの提案があり、広告を載せることで市の予算は0で作成することができた。また、アプリはダウンロード数も伸びが少なくなってきたため、今後しっかり更新していく。
- 小林委員：子ども食堂はありがたい。長期休業中、給食がない期間は不安になる。給食で命を繋いでいる子がいるということを知ってほしい。
- ⇒事務局：市内の子ども食堂は週一回であり、栄養面よりも心のケア等を目的としている。要保護児童対策地域協議会で、要保護児童のリストアップは行っているが、小中学校や教育委員会とも連携しながら、実態の把握に努めたい。なお、把握された場合は、生活保護やフードバンクの活用につなげていくため、連絡をいただきたい。
- ⇒石原委員：給食で命を繋いでいる子というのは、育児放棄ということか。
- ⇒小林委員：親が子どもを置いて何処かへ行ってしまうケースや、両親がいても勤労意欲がないケースなどがあった。
- ⇒田中委員：本県は東北で最も児童養護施設が多く、施設に来る子は6割が被虐待児、3割が障害児である。親の生活基盤がしっかりしていても、子に食事を与えていないケースというものはある。夏休みの通所施設利用では、原則弁当持参だが、作れない場合200円だけ持たせてもらって昼食を購入することもある。ネグレクトについては要対協ですすでに対応していると思うが、把握した方が通告することも重要である。
- ⇒石原委員：食事が満足に取れなければ、学力などへも影響が考えられる。
- ⇒小林委員：食事を与えていないケースというものはごく一部であるが、各学

校1～2名くらいいる。その子たちは、大人になってもそれが普通だと思ってしまうなど、連鎖に繋がる。

- 渡邊委員：市家庭児童相談室がこども未来室に設置され、保健師などからの情報が集めやすくなった。現在は障害児について、特に保護者と子どもがともに障害を持っているケースなどが大きな課題であると感じている。関係機関との更なる連携に努めていきたい。また、すこやか相談会については、子どもを直接見て、支援に繋がれるとても良い機会である。なお、待機児童については、より小さな地区ごとの児童数のデータがあれば、そこから読み取れるものもあるのではないかと。
- 真尾委員代理：組織再編等により、わかりやすい行政になってきた。私立幼稚園としても、市と連携が取れてきたように感じる。
- 藤田委員：前回の会議ですこやか相談会の準備について意見を出したが、対応してもらって大変助かった。何度も相談できる良い機会である。また、認定こども園となって市の管轄となり、近いところで園の方向性など話せるのがありがたい。一点、公私で保育料の格差があるため、将来的に一緒になっていくと良いと思う。
- 阿部委員：保育園児の保護者に対し、市の事業がまだまだ浸透していないと感じる。また、病児保育については、仕事を休むことが難しい方などから求める声はあるため、是非進めてほしい。
- 飯田委員：いろいろな事業を行っていて驚いた。育児放棄などについても、現状をわかっていなかったことへの反省があるが、認識を新たにして、委員として頑張りたい。
- 樋口委員：活発な意見交換ができた。地域の大人一人ひとりが子どもを気にかけてあげれば良いと思う。
- 事務局：長時間に渡り貴重なご意見をいただきありがとうございます。昨年こども未来室を立ち上げ、横の連携に取り組んでいるところだが、政策を考える上で市民の目線でのご意見をいただくことは、大変重要であるため、引き続きご意見等をいただきたいと思います。

・その他：白河市子ども・子育て計画の中間年見直しについて

<事務局説明：担当係員>

今年度中に、計画の中間年見直しを行う。見直しを行う項目は計画の第5章「子ども・子育て支援事業に係る量の見込みと提供体制」であり、実績値が見込み量から10%以上乖離している場合は原則見直しを行う必要がある。